

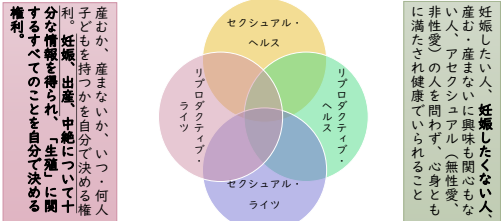
日本における移民女性の  
セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ  
— 予定外の妊娠と、避妊や中絶サービスへのアクセス —



田中雅子  
上智大学 総合グローバル学部 教員/社会福祉士

「性と生殖の健康と権利」とは？  
Sexual and Reproductive Health and Rights (SRHR)

自分の「性」に関することについて、心身ともに満たされて幸せを感じられ、またその状態を社会的にも認められること



セクシュアリティ「性」を、自分で決める権利。自分の愛する人、プライバシー、性的な快楽、性のあり方（男か女かそのどちらでもないか）を自分で決める権利。

3 持続可能な社会を築く

SDGsに見るセクシュアル／リプロダクティブ・ヘルス

目標3:あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を保障し、福祉を促進する。

ターゲット 3.7 :2030年までに、家族計画、情報や教育、リプロダクティブ・ヘルスの国家戦略や立案への組み入れを含む、セクシュアル／リプロダクティブ・ヘルスケア・サービスをすべての人々が利用できるようにする。

3.7.1. 近代的手法に立脚した家族計画を必要とする出産可能な年齢にある女性の割合

3.7.2. 女性1,000人当たりの思春期(10-14歳、15-19歳)の出生率。

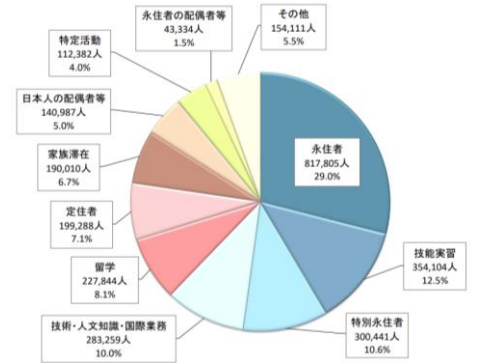
5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女の子をエンパワーする。

ターゲット 5.6 :国際人口・開発会議(ICPD)の行動計画、北京行動綱領、これらの検証会議の成果文書に従い、リプロダクティブ・ヘルス/ライツへの普遍的アクセスを保障する。

5.6.1. 性的関係、避妊法の使用、リプロダクティブ・ヘルスケアについて、自身の知識に基づいた決定を行うことができる15-49歳の女性の割合

5.6.2. 15-49歳の女性に対し、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスケア、情報、教育を保障する法律や規制を有する国の数

在留外国人の約282万人の在留資格別構成比 (2021年6月末)



在留資格別に見た妊娠・出産をめぐる課題

●問題が生じやすい、▲所属機関・学校/奨学金の有無などによる

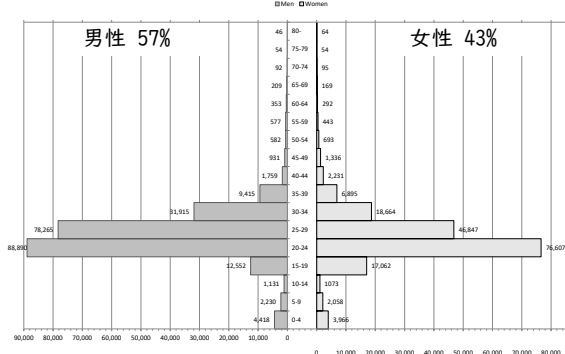
予定の妊娠の原因と相談援助の現場でよく聞かれる/予想される問題	留学		技能実習	特定技能	配偶者・人夫・国際結婚など	家族滞在	短期滞在
	学校・日本語専門学校	大学・大学院					
(来日前研修があっても)日本で使用できる避妊法について知る機会がない。	●	●	●	●	●	●	●
出身国で使用していた女性主体の避妊法が日本で認可されていないため、来日後、自分の身を守れない。	●	●	●	●	●	●	●
日本でも使用できる経口ピルは(月経困難症治療のためなど特別な場合でない限り)健康保険が適用されないのて、全額自己負担になり、経済的負担が大きい。	●	●	●	●	●	●	—
退学/解雇を恐れて、妊娠を学校や職場に言えない。	●	●	▲	▲	▲	▲	—
労働基準法の母性保護規定が適用されず、多くの学校には休学規定がなく、産前産後休暇が認められない。	●	▲	—	—	—	—	—
学校が「休学」を認めても「休学」の状態では在留資格の延長ができない。	●	—	—	—	—	—	—
生まれた子に「家族滞在」の資格が下りない(「特定活動」の資格は下りる場合はある)	●	▲	●	●	—	—	—

調査対象国の特徴

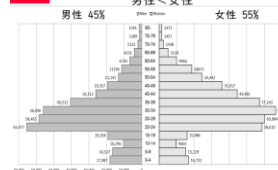
Rank	Country/Region	Total	Women	W15-49	Ratio	TITP	Student	Actvity-based	Ratio
1	China	745,411	404,484	295,599	73%	28,082	45,170	159,273	54%
2	Vietnam	450,046	196,756	185,798	94%	85,755	25,859	171,476	92%
3	Philippines	277,341	195,409	122,231	63%	9,395	1,128	21,859	18%
4	Korea	416,389	225,522	84,898	38%	0	4,017	19,042	22%
5	Brazil	206,365	94,622	53,631	57%	0	154	678	1%
6	Nepal	97,026	41,282	36,262	88%	73	7,437	33,698	93%
7	Thai	51,409	37,257	21,684	58%	4,363	1,245	6,558	39%
8	Taiwan	52,023	34,924	20,282	58%	0	1,967	11,574	57%
9	Indonesia	63,138	21,367	18,565	87%	6,849	2,129	13,847	75%
10	Myanmar	35,692	19,284	17,787	92%	7,580	1,845	16,031	90%
	Others	2,394,840	1,270,927	856,737	67%	142,097	90,951	456,036	53%
	Total	2,823,565	1,427,776	956,603	67%	148,422	99,440	92,126	10%



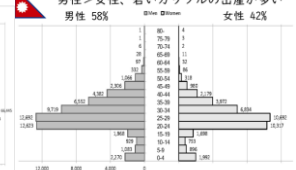
ベトナム (2019年末)  
20歳代前半が多い



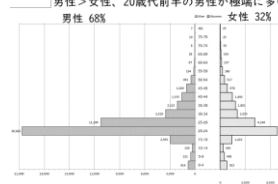
中国 (2019年末)  
男性 < 女性



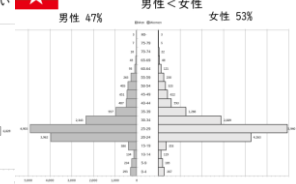
ネパール (2019年末)  
男性 > 女性、若いカップルの出産が多い



インドネシア (2019年末)  
男性 > 女性、20歳代前半の男性が極端に多い



ミャンマー (2019年末)  
男性 < 女性



孤立出産をした技能実習生をめぐる事件

年月	場所	国籍	内容	裁判
2019年1月	神奈川県	中国	保護責任者遺棄容疑	起訴、有罪判決
2019年4月	福岡県	ベトナム	死体遺棄容疑	起訴、有罪判決
2020年4月	岡山県	ベトナム	死体遺棄罪	不起訴
2020年11月	広島県	ベトナム	保護責任者遺棄罪	起訴、裁判中
2020年11月	熊本県	ベトナム	死体遺棄容疑	起訴、最高裁に上訴

- 妊娠した技能実習生に対する強制帰国や帰国の強要など不利益な扱いが起きている。
- 誰にも相談できず、孤立出産になりやすい。
- 「特定技能」「留学」の在留資格者も同様の問題に陥る可能性がある

移民女性が妊娠・出産によって困難に陥りやすい理由

★本セミナーでとりあげること

制度の壁②出身国と日本の避妊・中絶の選択肢や制度の違い  
→日本で可能な避妊法などを伝える。

★制度の壁①(在留資格の問題): 技能実習・特定技能1号は基本的に「家族帯同」が認められていない。  
→支援者による制度変更のためのソーシャル・アクションが必要

パートナーとの関係が不安定  
→妊娠葛藤期の相談が重要



★言語の壁  
情報収集や相談が難しい  
→日本語教育、医療通訳や多言語相談の充実

★心の壁: マタニティ・ハラメント  
来日前の借金、産休・育児制度など権利を教えられていない、「妊娠したら帰国」という誓約書を書かされている、など。  
→当事者が使える制度や権利を伝える

日本と諸外国における避妊法の相違点

	日本	諸外国
避妊法の選択肢	少ない	多い
避妊薬購入時の医師の処方箋	必要(一部オンライン処方可)	多くが不要
避妊薬の入手場所	医療機関、薬局	薬局、保健所等
医療処置の施術者	医師に限定	医師、研修を受けた医療従事者
保険適用	なし	国によってあり
若年層優遇措置	なし	国によってあり
費用	高い	安い

移民女性/男性が日本で避妊を利用しづらいのは、「言語の壁」だけが問題ではない。日本の避妊法の選択肢や費用は世界的に見て課題が多い。

計194国の統計に見る近代的避妊法 (UNPD 2020 より)

主体	手段	統計のある国の数
女性	不妊手術 (卵管結紮)	167
	子宮内器具 IUD	185
	★ホルモン剤 インプラント	125
	★ホルモン剤 注射	162
	ホルモン剤 経口ピル	189
	★女性用コンドーム	67
	★バリア法	105
	★授乳性無月経 LAM	80
	★緊急避妊薬	30
	★その他	77
男性	不妊手術 (精管結紮)	122
	男性用コンドーム	185

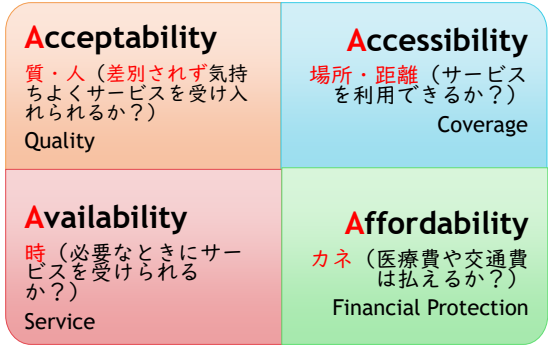
★は日本の統計なし⇒認められていない/普及していない

日本と移民女性の出身国における避妊法普及率(%)  
出典：国連経済社会局人口部 UNPD「世界の避妊薬使用2019年」

研究の枠組み

国・地域	日本で在留外国人登録している女性の数(人)	調査年	調査対象の女性の年齢(歳)	避妊法利用者の割合(%)										伝統的避妊法利用者の割合(%)	
				合計	男性主体	女性主体	近代的避妊法利用者の割合(%)								
				うち避妊法利用者の割合(%)	合計	不妊手術	コンドーム	不妊手術	IUD	インプラント	注射	ピル	コンドーム	その他	
中国	431,161	2017	15-49	80.5	1.4	24.6	18.3	34.1	0.2	0.0	1.2	...	0.7	4.0	...
韓国	243,906	2009	15-44	80.0	16.8	24.3	5.9	12.9	...	...	...	...	...	4.6	13.6
タイ	184,178	2017	15-49	54.1	40.1	0.0	1.7	7.4	3.3	1.1	5.0	20.9	...	0.5	14.0
ベトナム	161,711	2015	15-49	75.7	65.0	0.1	11.1	1.7	36.3	0.3	1.3	14.2	...	0.0	10.7
ブラジル	94,548	2013	15-49	80.2	77.7	4.2	10.3	21.4	2.0	0.1	5.3	34.2	0.1	0.3	2.9
インド	41,286	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
7 ナパール	38,284	2017	15-49	52.6	42.8	5.5	4.2	14.7	1.4	3.3	8.9	4.6	...	0.1	9.8
8 タイ	38,082	2016	15-49	78.4	75.5	0.4	2.5	24.3	0.4	1.1	14.0	32.8	...	0.0	2.8
9 ベルギー	23,165	2017	15-49	75.4	54.5	0.5	14.6	8.7	2.4	1.8	18.5	7.8	...	0.2	20.9
10 韓国	19,728	2017	15-49	75.9	67.7	8.3	12.7	18.7	11.3	2.0	1.4	11.4	...	1.9	8.2
11 インドネシア	19,541	2017	15-49	61.0	58.8	0.1	1.4	3.7	4.4	5.2	31.5	12.4	0.0	0.1	2.2
12 ミャンマー	15,137	2016	15-49	52.2	51.3	0.3	1.0	4.8	2.8	0.9	27.6	13.8	...	0.0	1.0
13 朝鮮	13,109	2014	20-49	78.2	76.5	0.0	0.2	2.2	74.0	...	0.0	0.1	...	0.0	1.6
14 インド	12,019	2016	15-49	53.5	47.8	0.3	5.8	36.0	1.5	...	4.1	...	0.3	5.7	...
15 カタランカ	4,168	2016	15-49	61.7	51.3	0.0	0.6	13.8	10.1	4.4	8.1	8.1	0.0	0.1	10.4
日本	63,686,000	2015	20-49	39.8	34.4	0.1	30.9	1.0	0.4	...	...	0.9	...	0.0	9.6

- ・日本だけが50%以下、コンドーム以外は1%以下。
- ・カトリックやムスリムが多い国でも日本より高い。
- ・日本にないインプラントや注射も使用されている。



日本で暮らす移民のリプロダクティブ・ヘルスに関する調査から

期間：2020年6月～2021年9月

方法：オンライン(一部、電話、質問紙)

回答：18歳以上の移民。回答数536(女性301、男性235)

対象：ベトナム(188)、ネパール(183)、ミャンマー(67)、中国(48)、インドネシア(39)

来日前に「妊娠したら帰国」などと言われた女性：16%(ベトナム 38%)

ベトナム人技能実習生は調査参加者12人全員が妊娠による制限を受けていた。

回答時の在留資格	ベトナム	ネパール	ミャンマー	計	日本でセックスパートナーがいた人のうち予定外の妊娠の経験 女性18%、男性17%
留学	18	2	0	20	男性23 女性30
技能実習	12	0	1	13	日本で出産
技術入国	2	2	1	5	日本で人工妊娠中絶手術
特定活動	4	0	0	4	日本で家族中絶
家族滞在	0	1	1	2	出身国で出産
技能	0	1	0	1	出身国で人工妊娠中絶手術
短期滞在	1	0	0	1	出身国で家族中絶
非正規	1	0	0	1	まだ決めていない
無回答	2	0	0	2	無回答
計	40	6	3	49	

調査参加者(国籍別、性別、在留資格別)

Country of origin	Vietnam			Nepal			Myanmar			Indonesia			China			Total		
	M	F	T	M	F	T	M	F	T	M	F	T	M	F	T	M	F	T
All residential status	84	104	188	106	77	183	14	53	67	13	41	54	18	26	44	235	301	536
Student	36	54	90	26	23	49	4	15	19	6	14	20	13	20	33	85	126	211
Engineer/Humanity	9	17	26	57	9	66	1	22	23	3	4	7	3	3	6	73	55	128
Dependent	1	3	4	5	35	40	0	5	5	1	12	13	0	0	0	7	55	62
TITP	23	12	35	0	0	3	1	4	0	1	0	0	1	0	0	26	14	40
PRILong-term	2	4	6	1	7	8	4	4	8	1	4	5	2	2	4	10	21	31
Specified skill	2	1	3	8	0	8	0	0	0	1	2	3	0	0	0	11	3	14
Others inc. NA	11	13	24	9	3	12	2	6	8	1	4	5	0	1	1	23	26	49

移住前後での避妊法の変化

Answered by	Place	Male condom	OC	EC	Implant	Injection	IUD	Sterilization	Rhythm method	Withdrawal	Other	Not used
Women	Home	58	8	14	3	6	5	1	6	15	3	86
	Japan	92	11	10	4	-	5	3	22	33	7	36
Man	Home	105	8	11	2	2	1	0	9	28	1	23
	Japan	106	10	6	1	-	2	0	10	27	4	13

- ・男性より女性の変化が大きい。
- ・来日後、確実性の低い方法を使用している人が多い。
- ・出身国よりも、来日後に緊急避妊薬を使用した人が少ない。

日本のどこで避妊薬などを入手したか?

Means	Women (n=170)	Men (n=137)	Total (n=307)
Bought it at pharmacies or medical institutes in Japan	72	65	137
Bought it through the Internet	14	15	29
Bought it before migration to Japan	9	9	18
Got it from friends from the same country now living in Japan	4	13	17
Sent by own family or friends from own country	4	11	15
Bought it at shops in Japan owned by people from own country	4	4	8
Others	15	20	35

87件(28%)-日本の医療機関以外から入手

## 日本で避妊法を使わない理由

Reasons	Women (n=170)	Men (n=137)	Total (n=307)
Want to get pregnant	17	7	24
Concerns over side effects	8	3	11
Do not know contraceptive methods	6	2	8
Do not have sexual intercourses	6	1	7
Cannot find own preferred options	4	3	7
Too expensive	3	2	5
Do not know how to get contraceptive devices	2	3	5
Feel embarrassed to buy it	1	0	1
Opposed by partner/spouse	0	1	1
Religious reasons	0	0	0
Others	7	5	12

## 考察および結論

## □Availability

- ・「日本では自分が好む避妊法が見つからない」と回答した人あり

## □Accessibility

- ・「日本では、ここで避妊具や避妊薬を入手したらよいかわからない」という回答あり
- ・28%は日本の医療機関では入手していない。

## □Affordability

- ・出身国と日本の価格差があることが、出身国から避妊薬など持ち込む理由の一つ。

## □Acceptability

- ・言葉の壁などを心配して来日前に不妊手術をしたり、避妊薬を準備した人もいる。

出身国と日本でのサービスの違いや価格差が、移民女性の日本におけるSRHRの実現を阻んでいる。